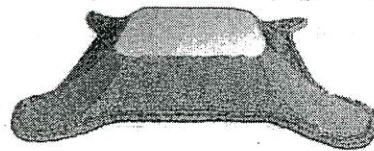


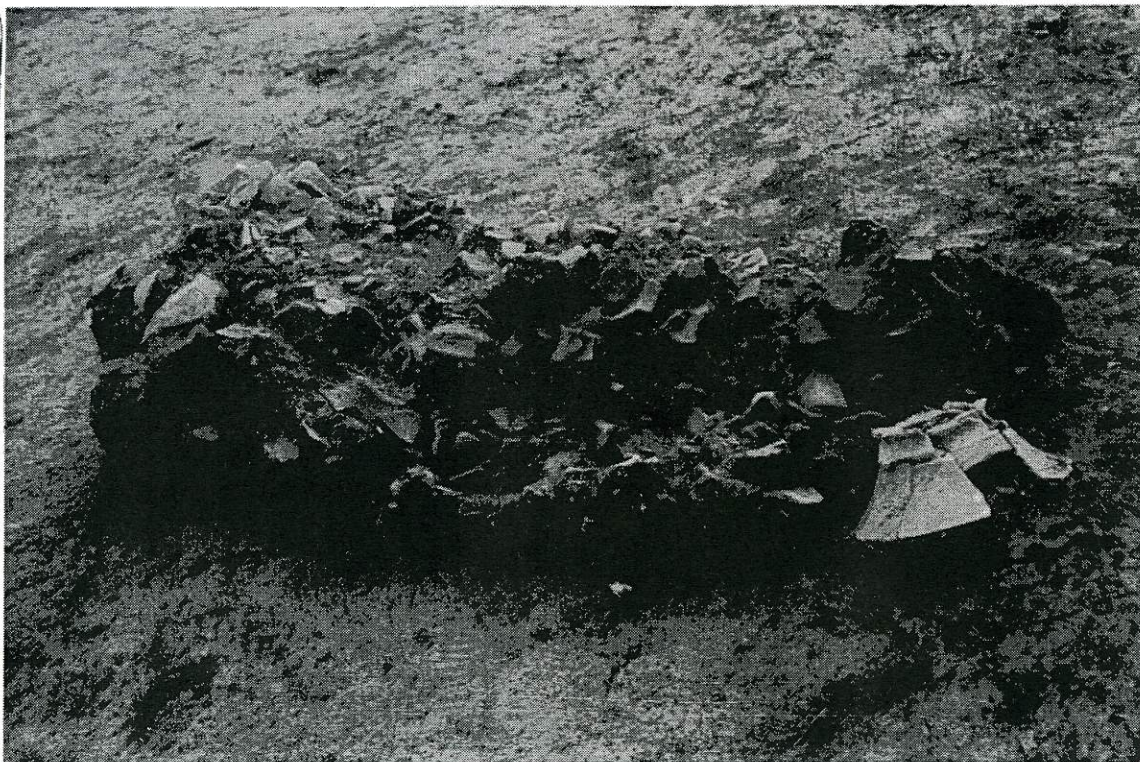
さわしも  
 沢下遺跡現地説明会資料

沢下遺跡は、松江市東持田町及び坂本町の南北に伸びる標高約20～30mの丘陵部に位置します。今回の発掘調査では、弥生時代後期の墳丘墓が5基(2号墓～6号墓)確認されました。中でも5号墓と6号墓は、墳丘裾の一部に直径約20cmの自然石が並んだ状態で確認され、その形態から四隅突出型墳丘墓と考えられます。大きさは推定で、5号墓が、東西約7m、南北約6m、6号墓は東西約12m、南北約11mです。また墳丘墓の中心付近には、埋葬施設が数カ所確認されており、その上面からは墓上の儀礼に使用されたと考えられる土器がまとまって出土しました。墳丘墓は当時の有力者の墓と考えられ、なかでも四隅突出型墳丘墓は山陰地方独特の墓で、大橋川北岸の松江市内において確認されたのは今回が2例目です。また開けた平野部を望む丘陵部ではなく、山側に面していることも特徴として挙げられます。

遺物では、弥生時代後期の土器の他、石器や奈良時代から平安時代頃の須恵器が出土しています。



四隅突出型墳丘墓模式図



6号墓 中心主体部 遺物出土状況